



竹中半兵衛重治

羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)の軍師として活躍し、黒田孝高(官兵衛)とともに「両兵衛」「二兵衛」と並び称される人物。

●天文13年(1544年)

美濃国斎藤氏の家臣である竹中重元の子として、美濃国大野郡大御堂城(現在の岐阜県揖斐郡大野町)に生まれる。

●永禄元年(1558年)

父・重元が不破郡岩手城主・岩手弾正を攻略。翌年には菩提山城を築いて居城を移し、重治もこれに従った。

●永禄6年(1563年)

織田信長の美濃侵攻に対する新加納の戦いでは、重治の戦術によって斎藤勢が勝利したとされる。

●永禄7年(1564年)2月6日

主君・斎藤龍興が政務を顧みず酒色に溺れていたため、重治は舅の安藤守就とともに稲葉山城(のちの岐阜城)を襲撃し、斎藤飛騨守ら6名を討ち取り、龍興を逃走させた。しかしその年の8月、龍興を諫めたうえで城を返還し、自らは隠遁生活に入った。

●永禄10年(1567年)

織田信長の侵攻により斎藤龍興が稲葉山城を追われ、没落すると斎藤家を去り、北近江の戦国大名・浅井長政の客分として東浅井郡草野に3,000貫の禄を賜るが、約1年で禄を辞して栗原山で再び隠棲した。

●元亀元年(1570年)

織田軍による浅井攻めの際、木下秀吉(のちの豊臣秀吉)が「美濃国人竹中氏らと与力に加えたい」と信長に願い出て許可されたと、『豊鑑』(竹中重門著)に記されている。秀吉は、栗原山を七度訪れて、重治を招いたともいう。同年、信長包囲網が形成され、信長と浅井長政が敵対すると、重治は浅井方家臣との人脈を活かして調略活動に従事。

松尾山の長亭軒城(美濃国松尾山)、近江国境にある長比城(近江国、中山道を挟んで、松尾山の西北西)の調略、および、鎌刃城(湖北最大級の山城)を、家老・樋口直房を調略することで、織田方に寝返らせた。

姉川の戦いの後、重治は信長の命で秀吉とともに近江国横山城に留まった。

この頃から秀吉の与力として活動したと考えられている。

秀吉が中国攻めの総大将になると、重治も従軍した。



竹中半兵衛重治

羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)の軍師として活躍し、黒田孝高(官兵衛)とともに「両兵衛」「二兵衛」と並び称される人物。

●天正6年(1578年)

有岡城の戦いでは、黒田官兵衛が荒木村重を説得するため城に赴いたが、逆に捕らわれる。この際、信長は官兵衛の子・松寿丸(のちの黒田長政)を処刑しようとするが、重治は密かに松寿丸を菩提山城下の家臣・不破矢足(喜多村直吉)の屋敷に匿い、処刑したと偽報。身代わりとして松寿丸の遊び相手の首を差し出した。信長への首実検にも不破矢足が使者として赴いている。如水(官兵衛)親子は後年、この身代わりの少年の親に扶持を与えて報いたという。不破矢足邸跡には現在、五明稲荷社が建ち、松寿丸が匿われた際に植えたと伝えられるイチヨウの木が残っていたが、2016年2月、腐朽のため伐採。若木が育成されている。長政は、東軍として、関ヶ原の戦いにも参戦した。

●天正7年(1579年)4月

播磨・三木城攻め(三木合戦)において病を得て、6月13日、陣中で死去。享年36。

墓所は三木市の平井山観光ぶどう園内にあり、今も地元住民によって手厚く供養されている。毎年6月13日、および農閑期の7月13日には「軍師竹中半兵衛重治公を偲ぶ法要」が行われ、平成26年(2014年)には435回忌を迎えた。

墓所は他にも、三木市志染町の栄運寺、岐阜県垂井町の禅幢寺、滋賀県東近江市の浄土寺などにある。なお、浄土寺の墓は竹中家臣の竹中筑後守のものである。

菩提山城跡

菩提山城(ぼだいさんじょう)は、岐阜県不破郡垂井町の菩提山に築かれた山城である。

竹中重元が岩手弾正を討った後、竹中氏の新たな居城として築かれた。

後に麓に竹中氏陣屋が築かれるまで用いられ、西美濃最大級の山城とされる。

全国的にも珍しい規模を誇り、南北約260m、東西最大幅約60mの広さがある。

現在、垂井町教育委員会が国史跡指定を目指して調査を進めている。

山頂の本丸跡からは、濃尾平野や中山道、美濃路、金華山を一望できる。